

二五 驃騎將軍韓壽墓碣

刻 不明（元康初？（元年は二九一年）永寧元年？（三〇一））
石高 四八糎。寬三二糎
隸書 四行。行五字
原石 洛陽博物館に現存

□ 故 散 騎 常
侍 驃 騎 將 軍
南 陽 堵 陽 韓
□ 君 墓 神 道



二五 驃騎將軍韓壽墓碣

隸書（八分）。四行、行ごとに五字、柱と一體に削り出された形をしており、兩端の行は外側半分を缺く。文字が刻された部分は高四八センチメートル、寛三二センチメートル。嘉慶初年（？）に洛陽縣で出土。韓府君は西晉の韓壽のこと。賈充の娘である賈午の夫で、病氣で死んだとも、趙王倫らの亂の際に殺されたともされ、死亡の時期について異説がある。病死であれば元康初、殺されたのであれば惠帝反正以降の刻石となる。本石は當初洛陽の存古閣に收められ、中華人民共和國成立後は洛陽博物館に收藏された。

□故散騎常侍^①。驃騎將軍^②。南陽堵陽韓□君墓神道。^③

(1) 散騎常侍

散騎常侍 〓 『晉書』卷二十四「職官志」：「散騎常侍。本秦官也。……魏文帝黃初初。置散騎。合之於中常侍。同掌規諫。不典事。貂璫插右。騎而散從。至晉不改。及元康中。惠帝始以宦者董猛爲中常侍。後遂止。常爲顯職。」

(2) 驃騎將軍

驃騎將軍 〓 『宋書』卷三十九「百官志」上：「驃騎將軍。一人。漢武帝元狩二年。始用霍去病爲驃騎將軍。漢西京制。大將軍。驃騎將軍位次丞相。」
『晉書』卷三十四「職官志」：「驃騎。車騎。衛將軍……開府者皆爲位從公。」

(3) 韓□君

韓府君 〓 韓壽。『三國志』卷二十四「韓暨傳」注引「楚國先賢傳」：「邦字長林。少有才學。晉武帝時爲野王令。有稱績。爲新城太守。坐舉野王故吏爲新城計吏。武帝大怒。遂殺邦。暨次子繇。高陽太守。繇子洪。侍御史。洪子壽。字德貞。同注引「晉諸公贊」：「自暨已下。世治素業。壽能敦尚家風。性尤忠厚。早歷清職。惠帝踐阼。爲散騎常侍。遷守河南尹。病卒。贈驃騎將軍。壽妻賈充女。充無後。以壽子謚爲嗣。弱冠爲秘書監侍中。性驕佚而才出衆。小子蔚。亦有器望。並爲趙王倫所誅。韓氏遂滅。」
『晉書』卷四十一「賈充傳附・賈謚」：「謚字長深。母賈午。充少女也。父韓壽。字德貞。南陽堵陽人。魏司徒暨曾孫。美姿貌。善容止。賈充辟爲司空掾。……遂以女妻壽。壽官至散騎常侍。河南尹。元康初卒。贈驃騎將

軍。同卷三十一「后妃傳上・惠賈皇后」…「初。后詐有身。內藥物爲產具。遂取妹夫韓壽子慰祖養之。託諒闇所生。故弗顯。遂謀廢太子。以所養
代立。…后在位十一年。趙粲。賈午。韓壽。董猛等皆伏誅」。同卷四「惠帝紀」…「永康元年夏四月」癸巳。梁王彤。趙王倫矯詔廢賈后爲庶人。
司空張華。尙書僕射裴頡皆遇害。侍中賈謐及黨與數十人皆伏誅」。

(晉の) 故の散騎常侍・驃騎將軍・南陽堵陽の韓府君の墓の神道。